



現代文学における

過去の遺産と記憶

—ジャン・ルオーを迎えて

日時：2014年11月11日(火)

16時50分～18時20分

場所：関西学院大学上ヶ原キャンパスB号館104

講演言語：フランス語(通訳あり)

入場無料・予約不要

読書の秋 2014 講演会

現代文学における過去の遺産と記憶

—ジャン・ルオーを迎えて

今年は第一次世界大戦の開戦から数えて100年。この戦争が現代世界に与えた衝撃を再考するために、現在、世界各地でシンポジウムや展覧会などさまざまな催しが開かれ、書店には次々と出版される関連書籍が積み上げられています。

大戦をいかに記憶するのか——フランスの作家ジャン・ルオーは、彼の処女作となる『名誉の戦場』において、個人や家族の歴史のなかに大戦という世界史的な出来事を置きなおす独特の語りをつくりだすことで、過去の戦争の記憶をめぐる「戦争文学」に新たな地平をひらきました。1990年に出版されたこの小説は、その年のゴンクール賞を獲得し、ベストセラーとなりました。

11月11日、大戦の休戦協定記念日であるこの日、ジャン・ルオーが大戦の歴史的遺産というテーマをめぐって、自分の作品のみならず、ひろく現代文学について語ります。この講演は、文学の想像力が過去とその記憶にいかに向き合うのかということを考えるうえでも、またよりひろくフランス文学の現在を知るうえでもまたとない機会となることでしょう。

入場無料・予約不要

日時：2014年11月11日(火)、16時50分～18時20分

場所：関西学院大学上ヶ原キャンパスB号館104

講演言語：フランス語（日本語逐次通訳あり）

問い合わせ：関西学院大学文学部 Tel.0798-54-6201



© jfpaga Grasset

Jean Rouaud

1952年、フランス西部の町カンボンに生まれる。ナント大学で近代文学を専攻したのち、キオスクの新聞売りなどさまざまな職業を経験しながら作家としての修行を積む。1990年、ミニユイ社から出版された処女作『名誉の戦場』がゴンクール賞を受賞。ベストセラーとなり、文学界に衝撃を与える。その後は『偉人たち』や『だいたいの世界』など家族小説・自伝小説の連作や、『いかにして誠実に生計を立てるか』や『歌い方』など「詩的な人生」と題された連作を次々と著し、現代フランスを代表する作家となる。最新作は『ちょっとした戦争』。

主催：انسティチュ・フランセ関西

共催：関西学院大学文学部



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY